

日本史B

教科名	日本史B	単位数	5単位	学科・学年	普通科 3年
教科書名	詳説 日本史			出版社名	山川出版
副教材等	なし			出版社名	なし
科目目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
到達目標 (検定目標)	原始・古代から現代に至る歴史の展開を世界史や地理との関連を重視し、国内外の地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で把握させる。各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関わる総合的な考察を通じて、我が国の文化や伝統がどのような特色をもち、どのように形成されたかについての認識を深める。その際、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程を考察し、歴史的思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。				
成績評価	定期考査、小テスト、課題、提出物、授業態度などをもとに、評価の観点により総合的に評価します。				
評価規準	関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能・表現 知：知識・理解				

授 業 計 画

月	授 業 内 容	授 業 目 標	評価の観点			
			関	思	技	知
4	第I部原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの	○日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してと理解する。 ○小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察する。 ○中国及び高句麗・百濟など朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教など大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立について理解する。	●	●	●	●
5	第2章 律令国家の成立 第3章 貴族政治と国風文化	○血縁関係の推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の形成について、仏教の受容や遣隋使などの大陸との交流を踏まえて考察する。 ○天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程と白鳳文化の形成過程を考察する。 ○盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察する。 ○藤原北家が権力を掌握していく過程を理解し、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解するとともに武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出す。	●	●	●	●

6	第Ⅱ部中世 第4章 中世社会の成立	<p>○外戚関係や日宋貿易の展開など平氏政権の特性を考察することを通して、武家政権の成立過程を把握する。</p> <p>○源平争乱から幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などを理解する。</p> <p>○鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察する。</p>	●	●	●	●
7	第5章 武家政治の成長	<p>○鎌倉幕府の滅亡、建武政権の成立と崩壊を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立について理解する。</p> <p>○惣村の形成や土一揆の発生など庶民による自治的な組織の成立に着目して、応仁の乱に代表される幕府の動揺や衰退を考察する。</p>	●	●	●	●
9	第Ⅲ部近世 第6章 幕藩体制の確立	<p>○鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察する。</p> <p>○幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を理解する。</p> <p>○初期外交から鎖国までの過程について、禁教徹底に伴う貿易統制の側面だけでなく、琉球・朝鮮・蝦夷地との交易など東アジアの動向と関連させて考察する。</p>	●	●	●	●
10	第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺	<p>○文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察する。</p> <p>○幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について考察する。</p> <p>○列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や寛政の改革・文化文政時代・天保の改革における失政を踏まえて、幕府の衰退を理解する。</p>	●	●	●	●
11	第Ⅳ部近代・現代 第9章 近代国家の成立 第10章 二つの世界大戦とアジア	<p>○日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察する。</p> <p>○公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解する。</p> <p>○国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察する。また、憲法の特色、議会と内閣の在り方などを通して、戦前の立憲制のしくみを理解する。</p> <p>○殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて考察する。</p> <p>○ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚を考察する。</p>	●	●	●	●
12	第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代	<p>○GHQによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことを理解する。</p> <p>○主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯</p>	●	●	●	●

		<p>と意味を国民生活の状況も踏まえて考察する。</p> <p>○サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察する。</p> <p>○日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解し、その後の新安保条約・LT貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握する。</p>					
1	第13章 激動する世界と日本	<p>○ベトナム戦争を遠因とするドル＝ショックや第四次中東戦争に発する石油危機による世界経済の混乱に対応するため開かれた主要先進国首脳会議の役目について理解する。</p> <p>○石油危機を技術革新で乗り越え、経済大国となった日本が社会貢献や貿易摩擦・円高への対応が求められたことが考察する。</p> <p>○冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へ進んだ経済状況など、当時の状況を理解する。</p>	●	●	●	●	
<p>【履修上の注意およびワンポイントアドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ノートを忘れないようにしましょう。 ・授業、家庭学習に真剣に取り組み、日々努力しましょう。 ・授業への取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とします 							